

# ジェンダー問題に関心を持つきっかけを作ろう～目指せ「他人事」からの脱却～

宮城県仙台第三高等学校 49 班

本研究は、多様性が謳われる社会の中で、ジェンダーについての差別や課題の解消に貢献したいという動機から始まった。先行調査の結果、情報発信によって人々が関心を持つことが解消への一歩となると考えた。そこで、仙台三高内でのアンケートや修学旅行での男女共同参画センターへの訪問を通して調査・取材を行った。その結果、何が正しい知識であるかは個人によって定義が大きく異なり、「正しい」情報の発信は困難であることを学んだ。そのため、この課題に向き合う際に重要となるのは、自らのアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）に向き合うことであり、その姿勢がこの課題に対して重要であるという結論に至った。

キーワード：ジェンダー、アンコンシャス・バイアス、情報発信

## I. はじめに

近年、日本ではジェンダーを巡る議論が活発化している。2023年に特に議論されたこととして、「LGBT 理解増進法」（正式名称：性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律）が挙げられる。この法律の第三条には”全ての国民は、性的指向またはジェンダーアイデンティティにかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重される。性的指向およびジェンダーアイデンティティを理由とする不当な差別はあってはならない（3 条、基本理念）”とされている。しかし、依然とし

て差別や偏見が横行している。一部の政治家による差別的発言などが報道されるが、私達の生活の中にもある。例えば、「男の子/女の子なのだから...」という発言や、男性が2人であるところを「ゲイかよ」とからかうことなど、無数にある。現状、パートナーシップ制度を導入する自治体の増加や、これに関する法制定が行われている一方で、私達の生活の中では差別や偏見が横行している。このことから、私達はジェンダーについての用語の解説といった情報発信を行うことで、解決に近づくのではないかと考えた。

### i) 情報収集

これは、以下の手段で行った。

#### ・書籍

ジェンダーについて活動を行っている団体の本を中心に調査した。特にパレットークというメディアの投稿がまとめられた「マンガでわかる LGBTQ+」（著：パレットーク/マンガ：ケイカ）（パレットーク）という本を参考にした。

#### ・ウェブサイト

こちらにも、ジェンダーについての活動を行っている「パレットーク」のサイトや電通の「ジェンダーに関する意識調査」を参照して調べた。

#### ・男女共同参画センターへの訪問

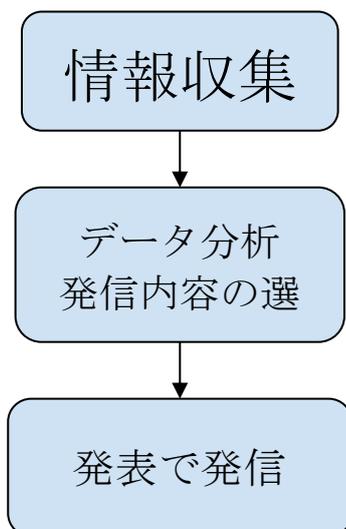
修学旅行の際に、京都府の男女共同参画センターであるウィングス京都を訪問し、日本のジェンダーにまつわる現状や取り組みを行っている方々の視点からみた課題について取材した。

#### ・アンケートの実施

宮城県仙台第三高等学校の生徒（58 回生～6

## II. 研究方法

<全体の流れ>



発表の場で情報発信をするために以下の活動を行った。

1 回生) を対象にアンケート調査を行った。アンケートの内容については

ii) 分析・話し合い

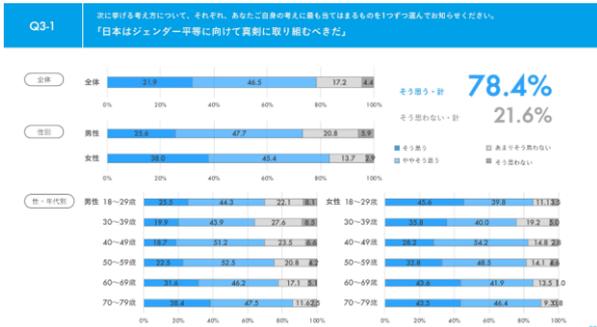
i で得たデータや情報をもとに、何を発信すべきかを話し合った。具体的には、どのような情報が求められているかや、それによってどのような良い影響・悪影響がありえるか、などを話し合った。

iii) 発表

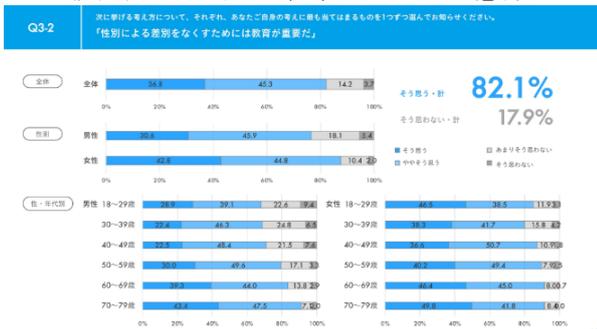
こちらについては、当初は動画による発信を計画していたが、遅れによってそれはできなかったため、ポスター発表によって発信を行った。

III. 探究内容

・先行調査 (電通総研)



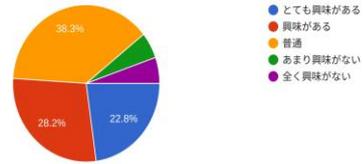
(図 2) ジェンダー平等についての意識



(図 3) ジェンダー教育について

「日本はジェンダー平等に向けて取り組むべきだ」という問いに対し、「そう思う・ややそう思う」と答えた人が 78.4% を占めている。また、「性別による差別をなくすためには教育が必要だ」という問いに対し、「そう思う・ややそう思う」と答えた人が 82.1% を占めていることから、ジェンダーに関する課題に取り組むべきであり、そのためには教育のような情報を発信すべきと考える傾向があるとわかった。ここから私達は仙台第三高校の生徒 (58 回生から 61 回生) を対象としたアンケートを Google form で作成し、google classroom で投稿した。その結果、計 149 人からの回答を得た。

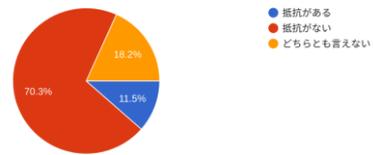
(1) あなたはどのくらいジェンダー問題に関心がありますか?  
149 件の回答



(図 3) 班のアンケート (1)

(1) からは、三高生でも電通総研の研究と同様にジェンダー問題に関心がある人の割合が多いとわかった。

(2) この課題を扱うことに抵抗はありますか?  
148 件の回答



(図 3) 班のアンケート (2)

(2) からは、ジェンダーの問題に抵抗を持たない者が多数である一方、抵抗を持つ者もいるということがわかった。

(3) では、(2) の質問の回答の理由を自由記述で回答してもらった。以下に両意見の主な理由を箇条書きで挙げる。

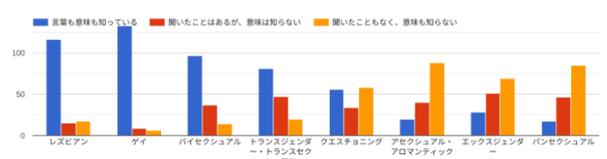
<抵抗が"ない">

- ・多様性の時代・今の時代だから
  - ・解決すべき課題である
  - ・平等だから など
- 時代・解決するべきという考えが多く見受けられた。

<抵抗が"ある">

- ・自らが関わることに気を構えてしまう
  - ・繊細な問題だから
  - ・当事者の人にとって関心を持たれることが良いことかどうか分からない・不安 など
- 当事者ではないために、関わることに抵抗を感じるという意見が多く見受けられた。

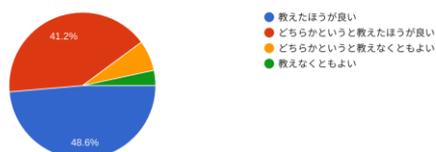
(4) 下記にあるそれぞれの「性の多様性」についてご存知ですか。



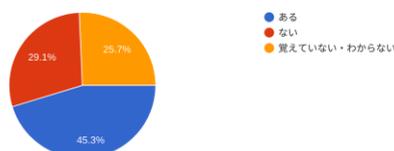
(図 3) 班のアンケート (3)

(4) では性の多様性についての言葉がどの程度認知されているかを調査した。

(5) 学校教育で「性の多様性」について教えたほうが良い、と思いますか？  
148 件の回答



(6) 学校教育で「性の多様性」について教わったことはありますか？  
148 件の回答



(図 3) 班のアンケート(5)(6)

(5)は先行調査で調べた電通総研の調査と比較するために同様の質問を行った。その結果、電通総研の調査と同様に、「教えたほうが良い・どちらかというとも良い」と答える人が 89.8%を占める結果となった。一方、(6)の「性の多様性」について教わった経験を問う質問では、あると答えた人の割合は半数に留まった。

(8)ではジェンダーに関するエピソードや疑問を自由記述で任意に回答してもらった。以下にその中にあったエピソードの概要を挙げる。回答は 28 件あった。

<概要>

- ・カミングアウトをされた際にどのように振る舞うべきか
- ・この課題の最終的ゴールとは何か
- ・外からの考察をするシスジェンダー<sup>1</sup>の人々の意見のみではなく、当事者と非当事者双方の対話から解決策を見出すことを望む
- ・メディアでの取り上げ方
- ・風呂・温泉の入浴について
- ・女の子だからと甘くみられた など

○京都市男女共同参画センターへの訪問

私達は 2022 年の 12 月に修学旅行の研修として、京都市の男女共同参画センターである京都ウィングスに訪問し、職員の方にお話を伺った。以下はその際にお話していただいた情報である。

- ・日本の現状
- 日本のジェンダーについて、特に課題となっているのは、政治と経済である。訪問時は 2022 年のデータではあるが、翌年の 2023 年のデータも同様の傾向があるため、図は 2023 年のものを引用する。



(図 4) ジェンダーギャップ指数 2023、日本

#### ・無意識の偏見

無意識の偏見はジェンダーの課題を考える上で重要であること。原因の一つになっていることも多い。

例：単身赴任をされている方  
介護をしている方  
わんぱく、など

と言われた際にどんなイメージが出るか。

#### ・隠れたカリキュラム

学校のカリキュラムには明文化されていないが、教員・生徒の行動や習慣などで意図の有無に関わらず生徒に教えるもの。

例：男女で呼び方が違う（くん、さん）  
学校の校長先生が男性／女性

### IV. 考察

#### i) 班での考察

##### ・情報発信の内容

当初、正しい知識（用語解説など）を発信すれば解決に貢献できると考えていたが、調査を進めるにつれ、それでは解決に至らないと考えるようになった。

1 つ目は、単なる用語の解説という発信が効果的ではない場合がある。まず、自らの性自認や性指向を表す言葉は無数にあるため、それらを覚えることは困難だとわかった。班で行ったアンケート調査(4)の結果から、L（レズビアン）、G（ゲイ）、B（バイセクシュアル）、T（トランスジェンダー）といった LGBT について認識している三高生が多い一方、Q（クエスチョニング）や A（アセクシュアル・アロマンティック）といった+に内包される言葉に関し

<sup>1</sup> 性自認と生まれ持った身体的性別が一致してい

る状態。

ては聞いたこともないという回答者が多いことから、言葉を覚えることが困難だということが伺える。2 つ目は、言葉の定義や使い方が個人によって大きく差異があるため、用語の枠組みが個人への理解を阻害する可能性があるということだ。仮に、AさんとBさんがどちらも自らをトランスジェンダーと自認しているとする。言葉としての表現は共通しているが、Aさんは自らを男性 50%、女性 50%と認識しているのに対し、Bさんは男性 30%、女性 70%と認識しているとき、二人の状況には差異がある。そのズレに気づかずに同じ表現であるからと一括りにしてしまう危険性がある。ある性のあり方を話すために言葉は必要であるのは確かだが、その認識のみでは十分とは言えないと考える。そこで、ジェンダーについての用語ではなく、無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）について発信し、自らの知識や偏見に気づききっかけをつくることをすべきという結論に至った。

## ii) 個人での考察

この探究では、調査をする中で、この探究がそもそも求められているのか、ということについて質問されることが多くあった。ここではその主張の根拠とそれらに対する自らの考察を記しこの探究の必要性について考察する。まず、この探究自体がジェンダーの課題の解決妨げる、あるいはむしろ悪化させるという考えがある。これにはいくつかの主張があるため、個別に考察する。

●ジェンダーに縛られないことがゴールであるならば、このことについて考え、発信すること自体がゴールから遠ざかっているのではないのか。○確かに、互いをジェンダーの枠組みがない状態で捉えることをゴールとする考えるもある。しかし、私個人としては現状それはかなり難しいと考える。ジェンダーはそれぞれのアイデンティティや社会、他者と深く関連する。それ故に放置することでは解決できず、課題として議論されてきたのではないかと考える。そのため、解決のためには話し合いをしてより良い答えや考えを見つけていくことが現状できる最善のことではないかと考える。

●当事者が必ずしも解決や議論を望むとは限らない。例えば、メディアや SNS で議論されるということは、当事者にとって自らと同じ立場の人々への批判や悪意に直面する可能性を持つ。○この考えに関しては調査をする中で気付かされた。解決しようとするあまり、当事者あるいは他の立場の人々の考えが置いてけぼりにされることがある。ここ近年、話題になることが増え、それについて発信するジェンダーマイノリ

ティの当事者の方々が増えたが、声を上げる者だけが当事者ではなく、様々な理由からあまり話されることを望まない人々がいることは考えるべきである。

## ・当事者と非当事者の壁

また、私自身は探究する際に自らが当事者ではないということ意識することが多かった。一般的に当事者とは、ジェンダーマイノリティの当事者を指すことが多い。その当事者の方々が生活する上で困難や無理解に直面することは、ほうが総合的に多いのは確かだろう。しかしその隔たりがこの問題に対して踏み込みづらく、当事者意識の広がりや妨げている面もある。この当事者・非当事者の壁をどう乗り越えることが今後の課題になるだろう。

## V.まとめ

今回の探究において私達の班は主に調査とアンケートから、無意識の偏見についての発信を行うことがジェンダーの課題の解決に貢献できるのではないかと考えた。しかし、ポスター発表はしたものの、そのための具体的な解決案の実行まではできなかった。そのため今後は学校教育に取り入れることや教材・パンフレットをつくるといった具体的方法の実験・検証をしていきたいと考える。無意識の偏見について広めることで、ジェンダーのみならず、多様性の社会にある他の差別・課題の解決につながるだろう。また、ジェンダーの課題については、法律の成立もあり、今後特に日本国内でさらに議論が活発になるだろう。その際に自身の考察であげた当事者・非当事者の課題に向き合う必要があるだろう。

## <参考文献>

### 1.はじめに

朝日新聞社.“「LGBT 理解増進法」施行 当事者・支援団体からは内容に批判も 企業への影響は?.” 朝日新聞デジタル, 竹山栄太郎, 23 June 2023,

### 図(2)(3)

電通総研.“【電通総研コンパス第 6 回 調査】ジェンダーに関する意識調査.”

電通総研コンパス vol.6 ジェンダーに関

する意識調査, 電通総研 担当 : 山崎、

中川、馬籠, 22 June 2023,

<https://institute.dentsu.com/wp-content/uploads/2021/03/%E3%80%90%E9%9B%BB%E9%80%9A%E7%B7%8F%E7%A0%94%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%B9%E7%AC%AC6%E5%9B%9E%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E3%80%91%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%B3%E3%83%80%E3%83%BC%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%>. Accessed 31

July 2023.

<https://www.asahi.com/sdgs/article/14939487>. Accessed 27 June 2023.

II) 研究方法についてパレットトーク

パレットトーク. マンガでわかる

*LGBTQ+*. 講談社, 2021. Accessed 11

July 2023.

パレットトーク. “Palettalk パレットトーク

(@palettalk\_) • Instagram photos and

videos.” *Instagram*,

[https://www.instagram.com/palettalk\\_/](https://www.instagram.com/palettalk_/).

Accessed 11 July 2023.

(図 4)

WORLD ECONOMIC FORUM.

“INSIGHT REPORT JUNE 2023.”

*weforum.org*, 2 June 2023,

[https://www3.weforum.org/docs/WEF\\_GGGR\\_2023.pdf](https://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2023.pdf). Accessed 31 July

2023.



#### IV. 考察

## V.まとめ

## 参考文献